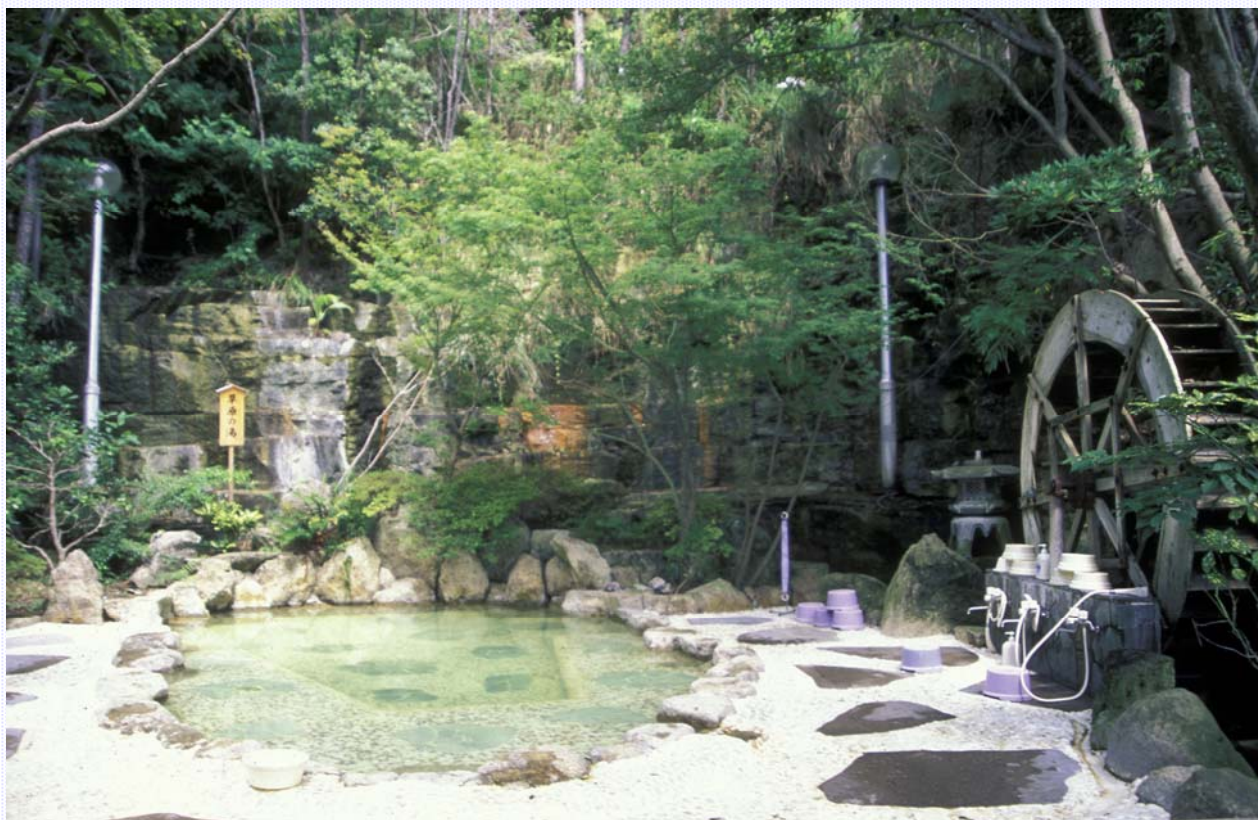


まーめいど便り

白浜マーメイドタウンの生活情報誌
…温泉療法の効能…

1999年 8月 創刊号



白浜温泉の歴史

(牟婁の湯 ～ 湯崎温泉 ～ 白浜温泉)

白浜は、日本書紀巻26に牟婁の湯、紀の湯の名で記されているように、1400年の昔より温泉地として知られ、多くの都人からこのうえもない保養地として愛されていたことがうかがえます。斎明天皇、持統天皇、文武天皇など、天皇の行幸も度々であったようで、万葉集や続日本書紀にその名が記されています。

温泉は大正末迄、湯崎海岸の岩場に自然湧出している湯を浴槽を掘って下に小石をしいて引き込んだもので、すべて共同の外湯でした。海の景色の美しさや開放的な明るい紀南の風土から江戸時代には、文人や藩の武士、武家の女中たちが多く訪れ、華やかな賑わいをみせていました。(この頃から湯崎温泉と呼ばれるようになったようです。)

明治20年に紀州航路が開かれ、大阪方面から汽船で直接くることができるようになると温泉は急速に発展しました。大正末から昭和初期にかけて湯崎地区から全町的に各地区に開発会社による開発がおこなわれ、白良浜を中心とした現在の白浜温泉街が生まれました。大浦温泉、古賀浦温泉の誕生もこの頃です。特に昭和8年、鉄道が開通し、白浜駅ができると関西屈指の温泉地として広く知られるようになり、町全体が白浜温泉として大きく発展しました。

現在は年間300万人を超える観光客でにぎわう日本の三大温泉観光地となっています。